

水野仙子編

女傑ジヤンヌ

## は し が き

一、 ジャンヌ・ダルクは、すでに皆さまも御承知の通り、西洋の歴史れきに有名な、フランスの女傑ぢよけつでございます。その傳記でんきは、随分ずぶんたくさんさん世の中に出て居りますが、それらは皆たいい其その出生や、事蹟じせきや、最後を説といてゐるだけで、文學としての面白さや價値かちは少いやうに思はれます。

一、 ドイツの劇詩人シルレルの悲劇「オルレアンせうぢよの少女」は、このジャンヌ・ダルクをお芝居しやくに仕組んで書いたもので、オルレアンの

少女とは、即ちジャンヌの異名いめいなのでございます。私は大體だいたいこのシルレルの「オルレアンオルレアンの少女」からこの物語をつづりました。ですから、これはジャンヌ・ダルクの傳記ではなく、一つの小説、物語としてお讀よみになって頂かなければなりません。

一、 原著は大へん面白いものですけれど、私にその面白さをそのままつたに傳へる力がないのと、脚本を平面に書き直し、又また、なるべく解りやすいやうにと、多少作り加へたり、省はぶいたりいたしましたのを申上げて置きます。

一、 けれどまあ、可憐かれんな少女ジャンヌが、國くにのためにどんな働きを

して、そしてどんな最後を遂とげますことか！ 天から授さづけられた  
不思議な力を持つて、忽然こっぜんと戦場に現はれ、或時あるときは傷つき、或時  
は捕とらはれながら、見事に佛蘭西を救つた少女の胸にも、或は惱なやみ  
があり、涙があり、悲しい思ひもあつて、思はず知らずあたゝか  
い同情の心を捧げなければならなくなるのでございます。

大正三年の夏

水野仙子



# 目次

一	神のお告げ	二
二	シノンの行宮	三一
三	ジヤンヌの謁見	五三
四	最初の勝利	七一
五	神か人か	八五
六	シヤロンの歡聲	一〇九
七	誘惑	一三七
八	胸の痛み	一五四

九	戴冠式	一七五
十	最後	二〇三

作品年譜に戻る

底本…世界少女文學「女傑ジャンヌ」

大正三年十月四日發行

編者 水野仙子

發行者 大橋新太郎

發兌元 博文館

【謝辞】

底本の入手にあたりご尽力下さいました菅野俊之様、複写していただきました須賀川市中央図書館岡崎朋子様にお礼申し上げます。

令和三年八月一四日

小林 記

【入力者注】底本は総ルビですが、入力者の判断により一部のみ残しました。

女傑ジヤンヌ